

令和元年度 会派調査研究報告書

(視察先 1 箇所につき 1 枚)

会 派 名	壮志会	
事 業 名	先進地視察 「令和元年度台風第 15 号被害と対応について」	
事 業 区 分	研究研修	調査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

令和元年 9 月 8 日の台風第 15 号及び 10 月 12 日の台風第 19 号、10 月 25 日の大雨災害により、千葉県では甚大な被害が発生した。特に台風第 15 号は、観測史上最強クラスの勢力であったため、その被害状況と災害対応から上田市の施策の参考とする。

2 実施概要

実施日時	視察先	千葉県 君津市
令和 2 年 1 月 28 日 9:30 ~ 11:30	担当部局	総務部危機管理課
報告内容 (感想、市政に活かせること)		
<p>(1) 視察先の概要 (令和元年 11 月末時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住みよさ 総合 696 位 (48.21) ・ 財政健全度 総合 116 位 (54.24) ・ 製造品出荷額等 総合 94 位 (6,786 億円)。 ・ 大規模小売店施設数 総合 455 位 (12 施設) ・ 人口 総合 330 位 (85,604 人) (増減率 3 年前比) 総合 536 位 (2.86%) ・ 年間降水量 総合 273 位 (1,705mm) ・ 日照時間 総合 542 位 (1,827 時間) <p>(2) 視察先の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 房総半島の南西部にあり、臨海部には重工業中心の工場群と市街地が連なり、南部の平野部から丘陵部にかけて田園地帯が広がる。かつては漁業と農業が中心であったが、65 年に八幡製鉄 (現・日本製鉄) の進出により世界有数の製鉄所を持つ「鉄のまち」として変身。内房地方の中核都市として発展してきたが、人口は 95 年の 9 万 3 千人をピークに減少傾向。 <p>(3) 視察事項について</p>		

- 1 令和元年台風 15 号対応

9月8日	午前9時	職員注意配備.....危機管理課職員
	午後4時30分	暴風警報発表.....一職員第1配備
	午後5時	自主避難所開設.....8か所
	午後10時50分	大雨警報発表
9月9日	午前2時頃	大規模停電発生
	午前2時15分	洪水警報発表
	午前3時	土砂災害警戒情報発表
	午前3時47分	災害対策本部体制
	午前3時55分	避難勧告発令.....土砂災害警戒区域等
	午前8時	全職員参集
	午前8時30分	災害対策本部会議

- ・瞬間最大風速 33.6m/s
- ・最大降水量 55.5mm/h
- ・累計降水量 207.5mm/h

建物被害..... 住家等 4,115 件(全壊 26 件、半壊 180 件ほか)
道路・河川被害..... 776 件(倒木 348 件、土砂崩落 80 件ほか)
停電..... 最大 15 日間、最大 37,700 軒
断水..... 最大 16 日間最大 13,000 世帯
農林業被害..... 18 億 7 千万円
市施設の被害..... 184 施設
開設避難所..... 最大 10 か所(避難数延べ 489 人)
給水活動..... 16 日間、20 か所、14 団体から応援要請があった。
電源確保(水道施設)... 自家発電設備、電源車配置 11 施設、発電機 7 施設
トイレ設置..... トレーラー3台、仮設トイレ 14 基、15 日間
仮設風呂(自衛隊)..... 3 か所、13 日間、6 を 582 人が利用。

- 2 令和元年台風 19 号対応

10月11日	午後1時	避難所開設.....11か所
	午後2時	避難準備情報発令(高齢者等避難開始)
12日	午前6時41分	大雨・暴風警報.....職員第2配備
	午前11時30分	職員第3配備.....避難所追加(1)
	午後1時15分	避難勧告発令.....避難所追加(4)
	午後3時51分	洪水警報
13日	午前2時48分	大雨・暴風・洪水警報解除

- ・瞬間最大風速.....27.5m/s

・最大降水量.....18.0mm/h

・累計降水量.....16.0mm/h

台風 15 号を教訓として、ダムの事前放流をしたため、被害は最小限。

建物被害..... 住家等なし

道路・河川被害..... 50 件(倒木 25 件、土砂崩落 10 件等)

停電..... 最大 6,900 軒

断水..... 最大 796 世帯

農林業被害..... 林道 5、農道 8、農地被害 19、施設 4

開設避難所..... 最大 17 か所(避難数 1,863 人)

給水活動..... 4 日間、2 か所、5 台

電源確保(水道施設)... 自家発電設備 11 施設、電源車配置 9 施設、発電機 6 台

- 3 令和元年 10 月 25 日大雨対応

10 月 25 日 午前 8 時 20 分 大雨警報

午前 8 時 36 分 洪水警報

午前 10 時 04 分 土砂災害警戒情報・避難勧告・避難所開設

午前 11 時 災害対策本部会議(職員第 3 配備)(9)

午前 11 時 50 分 避難勧告

午後 0 時 35 分 避難指示(避難所追加 2)

午後 2 時 避難所変更

・瞬間最大風速.....12.8m/s

・最大降水量.....53.0mm/h

・累計降水量.....241.0mm/h

建物被害..... 住家等 3 件

道路・河川被害..... 106 件(道路崩落 51 件、道路冠水等 55 件)

停電..... なし

断水..... なし

開設避難所..... 最大 12 か所(避難数 65 人)

全国からの支援(三災害合計)

・民間団体(個人含む)... 約 420 団体(名)

・主な支援物資..... 食料品 6 万食、飲料水 11 万 2、ブルーシート 2 万枚

・災害廃棄物受け入れ... 清掃工場 7,139 台、スポーツ広場 3,694 台ほか

課題に対する検討

- ・停電対策..... 防災行政無線による情報伝達は、3日間(72時間)は稼働するが2週間は想定外だった。発電機により、市内200か所以上で充電(携帯電話等)したが、盗難の恐れがあった。今後は、各家庭に個別受信機の設置を検討しているが、1台3万円で12億円の経費が必要となり難しい。
- ・給油対策..... 停電の際は給油(ガソリン)ができない。災害対応型SS自体が物流的には入手困難。LPガスは比較的長期保有(20年)が可能。
- ・電話対策..... 市民等からの要望等に対して、応援職員による日替わり対応では限界がある。そのため職員を固定化する必要があるが、これは物資受入等其他災害対応業務等においても同様である。
- ・報道対策..... 秘書広報班は、十分な対応ができなかったため危機管理職員が対応したが、そのため本部運営業務に支障が生じた。急遽、本部運営業務を応援職員で対応したが、指示系統が混乱を生じる結果となった。
- ・避難所対策..... 地震を想定して職員2名の配置を決めていたため、人的な不足を生じた。従来の避難者による運営は台風の際には機能しなかった。また、避難は一時的で、その後は物資等の供給ステーションとなる。今後は、職員の人員等の見直しを行い、全員で対応する。
- ・要援護者対策... 市の特別避難所の開設(生涯学習交流センター、健康福祉センターふれあい館)及び民間特養(3施設)を利用。在宅は民生委員がみまわる。
- ・情報対策..... 防災行政無線(屋外拡声支局x、個別受信機○)は、停電時は機能せず。メール、ツイッター、ホームページも同様。広報車と広報きみつ災害臨時号の紙媒体で郵便局と民生児童委員の協力を得て配付。
- ・自治会対策..... 自主防災組織では避難所の開設はしていない。活動ができなかった地区は多いが、充電ステーションを行った地区もあった。また、活動についてはアンケート調査を行い、今後検討する。
- ・支援対策..... 応急救助は避難所の開設・救出活動・物資支援・ブルーシート展張。
- ・防災計画..... 今年度中に災害検証報告書をまとめ、令和2年度で関連する詳細なマニュアルも含め見直したい。
- ・防災教育..... 庁内では、業務内容を熟知していない職員がいたため、実施する。市民向けには、自助が基本なのでせめて食料の備蓄はお願いしたい。

君津市では、約2か月間に3連続の台風等の襲来という未曾有の教訓を踏まえ、災害対策を早期に講じる強い意欲を感じた。君津市は過去に水害による被害が少なく、地震対策を中心に進めてきた。

今回想定外の台風に伴う突風、豪雨等により、長期の停電、断水、電車の不通など市民生活に多大な影響があった。このため、君津市地域防災計画等の見直し作業に着手し、新年度において年1回の防災会議を異例といえる複数回の開催を検討している。また、市職員の防災教育の充実を図り、本番に強い対応能力の向上に努めるとしている。

避難所は、市施設で51か所を指定しているが、自治会の設置はない。一度開設した浸水想定地区外の避難所をダムの緊急放流にあたり閉鎖し、小学校へ変更したとの説明があった。災害時にはより柔軟な思考と決断力が求められるため参考となった。

当市は、市の中央を千曲川が流れ、急峻な山々を有しているため災害が想定されるが、本州で一番少ない降水量によって守られてきた。しかし、全国で毎年の様に多発する自然災害に備えるため、当市における防災対策をあらゆる面から検証し、市民の生命と財産を守る立場から、積極的に対応すべきと考える。当市の特徴である全国に誇れる市民による「自治会組織」の利点を十分に活かして「備えあれば憂いなし」の言葉の重さを常に念頭に対応して参りたい。

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと